



# AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

## 年頭のご挨拶 — 創立20周年を目指して —

会長 下山 貞明

2009年の新しい年を皆様とともに迎え、心よりお慶び申し上げます。

日頃、会員の皆様には当協会の運営と事業推進にあたり、更なる充実を図るべく多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度は役員改選の時期に当たり、新役員におかれましては各委員会で相互協力のもと、積極的に活動され着実に事業実施をされています。

特に年間事業以外としては、下記事項が挙げられます。

- 1) 駐日スペイン大使夫人を三溪園へお招きし、親睦会を開催して楽しいひと時を過ごしました。
- 2) スペイン映画の第一人者であるアルフレード・カステジョン監督を迎え、「スペイン映画の夕べ」を開催いたしました。
- 3) 当協会の顧問である元駐スペイン大使坂本重太郎様が秋の叙勲にて「瑞宝重光章」を受章されました。
- 4) フアン・カルロススペイン国王王妃両陛下が国賓として来日され、天皇皇后両陛下がご臨席された晩餐会にお招きを受けました。

また、2009年度は、通常事業の執行と併せて創立20周年記念事業の準備の年と位置付け、会員皆様方の多数のアイデアを頂き、記念事業にふさわしい計画を実施いたしたいと考えております。積極的な参加を宜しくお願い申し上げます。

なお、横浜市では6月2日を中心に「横浜開港150周年行事」として多彩なイベントが開催されますことをお知らせいたします。

終わりに、皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念して私の年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 坂本重太郎顧問瑞宝重光章を受章

平成20年10月3日、内閣府より秋の叙勲受章者が発表され、坂本重太郎当協会顧問が瑞宝重光章（ずいほうじゅうこうしょう）を受章されました。

坂本顧問おめでとうございます。協会員一同心よりお祝いを申し上げます。

瑞宝章は、公務などに長年にわたって従事し、成績を挙げた方に与えられる勲章です。制定時、勲一等から勲八等までの8階級がありましたが、2003年（平成15年）の栄典制度改革で、6階級に改められました。そして各階級の名称もそれまでの「勲〇等瑞宝章」から旭日章に準じたものになりました。

坂本重太郎顧問は、駐スペイン大使をはじめとし長年にわたって公務に従事し、成績を挙げられたことが評価され、この度の受章になりました。



# スペイン国王王妃両陛下の晩餐会に招かれて

会長 下山 貞明

2008年11月11日（火）、明治記念館において天皇皇后両陛下、皇太子様等皇族方をお迎えし、スペイン国王王妃両陛下主催答礼晩餐会が開催されました。

各界多数の代表者が招かれ、当協会の代表として出席いたしました。

誠に光栄なことであり、これもひとえに協会の役員・会員の皆様方の日頃のご活躍の賜物と深く感謝いたしております。

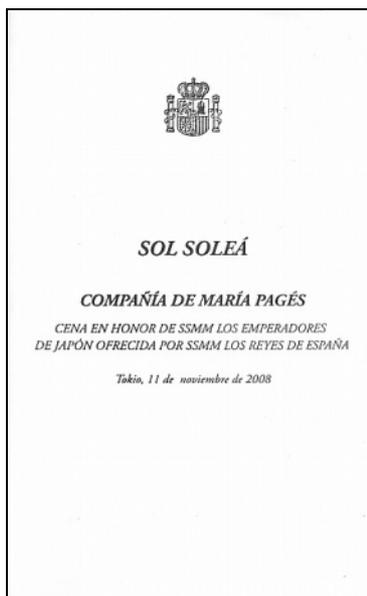
当日午後7時40分、天皇皇后両陛下、皇族方をお迎えし晩餐会が盛大に開催されました。

まず開会前にマリア・パヘス舞踊

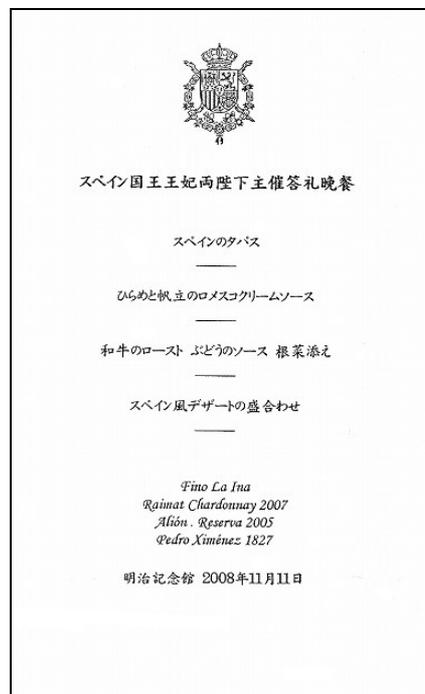
団による歌と迫力ある踊りに魅せられ、続いて会食となりました。メイン料理は「和牛のローストぶどうのソース根菜添え」で、その他スペインの粋を極めた料理の数々でした。

美味なる料理とともに、各テーブルにおいては賑やかに歓談し、あっという間に閉会の午後10時20分を迎えました。

当日は夜遅くなると思い、ホテルニューオータニに部屋をとり、夜景を一望しながら晩餐会の余韻を楽しみゆっくりと休むことができました。



▲「マリア・パヘス舞踊団」プログラム



▲晩餐会メニュー

## 会員投稿

# スペイン国王王妃両陛下歓迎式典

中澤 康晃

昨年11月10日に皇居でスペインの国王ご夫妻の来日記念式典が行われましたが、実はその一日前に、帝国ホテルで在日スペイン人向けの記念パーティーがあり、参加しました。

大使館登録済みの日本在住スペイン人全員が招待されたようで、まず国王ご夫妻は、スペイン人に会われました。ご夫妻が本当にスペイン国民を愛されていると感じました。

私のスペイン人の友人にも大使館から国王歓迎式典の招待状が届きました。招待者は同伴者を一名連れて来る事が可能だったため、私もこのレセプションに参加できたのです。本当に素晴らしい思い出となりました。

タクシーで帝国ホテルに着くと、ロビーには着飾ったご婦人方や正装姿のスペイン人男性が沢山いました。200人くらいいたのでしょうか。

会場は帝国ホテル2階「孔雀の間」でしたが、入る前に、アイデンティティーカードやパスポートの提示を求められ、私は免許証を出しました。空港並みのセキュリティチェックで、金属をつけているとゲートのアラームが鳴るようになっていました。

全員が会場に入り、国王ご夫妻をお待ちしました。私達と同じ入り口から入場されるということで、会場

中央を花道のようにしてご到着まで20分ほどお待ちしました。その間、スペイン人のお喋りの賑やかだったこと。「静粛にお願いします」と、何回もスペイン語でアナウンスがありました。

そしていよいよ国王ご夫妻が到着されました。まるで、テレビを見ているようでしたが、間違いなく国王ご夫妻です。壇上に上がられると同時に、スペイン国歌（La Marcha Real）が流れ、国王のスピーチが始まりました。

最初に、アフガニスタンでスペイン兵士が犠牲になったことを話され、少し重苦しい雰囲気でしたが、その後、国営セルバンテス文化センターがこのたび公式にオープンされることを喜んでいらっしゃる様子でした（11月11日（火）にセルバンテス文化センターを訪問されました）。

スピーチが終わると壇上から降りられ、私達の中に国王ご夫妻が入ってこられましたので、会場はざわめき、みな握手を求め集まりました。私ももしかしたらと思い、少しずつ近づき国王ご夫妻と握手できました。スペイン人たちにとってもフレンドリーに日本での生活を聞かれています。話によれば、スペイン国内でも、国王ご夫妻にお会いできる機会はめったになく、まして握手やお話はなかなかできないそうです。

今回は沢山のスペイン人と日本人のカップルがいましたが、スペイン人男性と日本人の奥さんがほとんどで、日本人女性はもてるなと思いました。

今回は貴重な経験をさせて頂きました。友人には感謝しております。

### El Rey hizo hincapié en la difusión de la lengua española, coronada con la apertura oficial del Instituto Cervantes

Con unos minutos de retraso, los Reyes comparecieron en la sala; él con un sobrio traje gris y corbata del mismo tono, y ella con un vestido rojo adornado con un broche de oro e infinidad de pulseras en las muñecas. Tras escucharse el himno nacional, el Rey pronunció un breve discurso en el que recordó la primera llegada de misineros españoles a Japón, hace cinco siglos, la segunda, hace 60 años durante el período de posguerra, y la más reciente presencia española en estas tierras representada por empresarios, profesores, estudiantes e investigadores. Don Juan Carlos hizo hincapié en la difusión de la lengua española, coronada con la apertura oficial del Instituto Cervantes de Tokio, el martes 11.

Después de la alocución, los Reyes saludaron a los presentes, estrechando manos con un sorprendente interés por el trabajo de unos, la pronunciación correcta del nombre de otros y el quehacer diario de un español en Japón. Mientras tanto, el jamón, los pinchos y el chocolate con churros iba desapareciendo de las mesas con la misma celeridad con que algunos aguraban las copas de cava y Rioja. (David Taranco/IPC)



LOS REYES CON EL EMPERADOR Y LA EMPERATRIZ

▲Internacional Press（スペイン語版/11月5日号）でも、国王ご夫妻来日の様子が大きく取り上げられました

## \*\*\*\*\* スペイン・サロンへのお誘い \*\*\*\*\*

### ●2009年2月のスペイン・サロン

#### 「新年親睦パーティー」

恒例の横浜スペイン協会新年会を下記のとおり開催いたします。ふるってご参加ください。

日 時：2月14日（土）13：30～16：00

場 所：波止場会館4階／大会議室

中区海岸通1丁目1番 TEL：045-201-3842

（大さん橋のたもと「開港広場前」信号そばのレストラン「スカンディア」の並びの裏）

会 費：会員、一般とも 2,000円

なお、当日のプログラム等詳細は同封のチラシをご覧ください。

## 《お知らせとお願い》

協会公式ホームページでは、PDFで過去の「AIYES通信」を公開しています（一部を除く）。

そこでは、今まで開催されたスペイン・サロンの内容を見ることができます。

ご覧になって、同様の催しや講演を行って欲しいご希望がありましたら、係までご一報ください。開催を検討させていただきます。

◇スペイン・サロンメールアドレス aiyes\_salon@yokohama-spain.jp

# 歴史と文化を知るスペイン・サロン

## ●10月のスペイン・サロン

「日本に魅せられた一スペイン人の素顔」

講師：アインゲル・アロツ・ラファエル氏

日時：2008年10月5日（日）13：30～15：30

会場：県民サポートセンター7階／711号室

いつもと違って日曜日のスペイン・サロンでしたが18名の出席者があり、バスク地方ビルバオ出身のアインゲル・アロツ・ラファエルさんを囲んで、和気あいの楽しい会でした。ラファエルさんは昨年7月まで上智大学で日本語と日本文化を学び、今年4月からは日本の文部科学省国費研究生として、さらに日本語研究を深める予定という若さ溢れる情熱的な好青年です。

まず彼が「なぜ日本語を学ぶようになったか」というと、4年前イタリア留学中、イタリア語はスペイン語に似ているのですぐマスターしてしまい、もっと難しい言語に挑戦してみたいと思ったのがきっかけでした。しかし日本語の環境がないスペインやイタリアで日本語を勉強するのは難しい、日本語が溢れる場所に行かなければ上達しないと考え、2年前アルバイトで貯めたお金で2ヵ月間の短期留学生として日本に来ました。そこで言語だけではなく実際の日本に触れてみて、ますます日本文化に好奇心が湧き、スペインに帰ってから日本についてヨーロッパで書かれている本や論文を読みまくり、マドリードの大学院では明治維新からの思想史について「ヨーロッパにおいて現代日本がどのように想像されたか」を修士論文のテーマに選びました。そして奨学金をもらって上智大学に留学してからは、明治維新から始まる日本の（知的）近代化と言語との関わりをテーマに研究してきましたが、バスク人としてのバスク語の近代化とも比較して、「さらなる研究の方向が見えてきた」とのことです。本当に話の端々に日本の歴史文化をよく勉強していることがうかがわれ、熱のこもった話に、これからの彼が日本での研究や体験によりさらに見つけていく「日本」がどのように発展していくのかが楽しみに思えました。

さて、これらの話がすべて流暢な日本語でした！わずか2～3年でこれだけ内容のある話を流暢に話すことができるラファエルさんに本当に驚き感心してしまいました。彼の育ったビルバオでは高校までの授業はすべて公用語のバスク語、一方家庭内ではスペイン語（カスティージャ語）だったそうで、それぞれ言語体系の全然違うバスク語、スペイン語、日本語と自由に操ることが出来るというのは驚異であり、うらやましい限りでした。

後半はバスク語についての話です。バスクには6つの方言があり、それらはスペイン語とフランス語の違いより大きな違いがあります。そのうち、地理的に真ん中のバスク語を標準語BATUA（バトゥア）として、1975年フランコ没後に公用語をバスク語と決めました。いまでは、職場、学校教育、新聞テレビなどすべてでこの標準語を使用していますが、家庭では方言やカスティージャ語も話されています。

最後にミニ・バスク語講座です：こんにちは＝KAIXO（カイショ）、さようなら＝AGUR（アグル）、私は日本人です＝JAPONIARRA NAIZ（ハポニアラ・ナイス）

バスク地方を旅行する時には使ってみたいものです。ラファエルさん、楽しいひと時をどうもありがとう  
ESKERRIK ASKO（エスケリック・アスコ）！（寺原瑛子）



▲スラスラと日本語を書きながら、  
バスクという国を語るラファエル氏

## ●11月のスペイン・サロン

「一流のギタリストが奏でるスペイン名曲の数々とトーク」

講師：永島志基氏

日時：2008年11月1日（土）13：30～15：30

会場：波止場会館1階／多目的ホール

昨年11月1日、いつもより暖かい土曜日の午後、大栈橋近くの波止場会館で、ギターコンサートが行われました。

ギタリストの永島志基さんは、スペインに留学し、マドリード王立音楽院でクラシックギターを学ばれ、現在は演奏のほかに、作曲、編曲、また大勢の方々に指導もされているというように、旺盛な活動をなさっ

ています。自己紹介で「父親は漫画家の永島慎二」とおっしゃり、皆さんからどよめきが出ましたし、お母さまがカトリックの信者でいらして幼いときから教会に行きスペイン語を聞いて育ったとのことでした。

演奏に加えてスペインのお話を多くしてくださいました。ビウエラ(vihuela)という古楽器の曲をギター用に編曲された3曲、「ハバーナ」「ファンタジア」「皇帝の歌」は以前古楽器演奏会で聞いたような素朴で穏やかな曲でした。王様達は平和なとき、戦いに臨んで遠征するとき、音楽家(楽師達も)を同行し演奏させては気分を慰めていたそうです。

ベラスケスやゴヤが王室お抱えの画家だったのと同様に、音楽家も王室に抱えられていたのです。これらの曲はどこかの戦場で演奏されたかもしれませんし、または平和な夏の離宮で演奏に踊りが加わったかもしれません。

「魔笛の主題による変奏曲」はモーツアルトの「魔笛」からテーマを得て作られたそうです。友人が、この曲を練習していたことがあって、とても思い入れがあり、再開する時にはこの曲を練習したいと言っていますが、弾くには難しそうでした。明るく楽しい曲でした。

第1部の終わりは、「禁じられた遊び」。いつもながら心を揺さぶられる曲でした。

お茶とお菓子の休憩を挟んで、第2部は、3つのカタロニア民謡から始まりました。「盗賊の歌」「アメリカの遺言」「聖母の御子」。カザルスがチェロで演奏する「鳥の歌」がカタロニア民謡を代表すると思いついていたのですが、3曲それぞれに陽気さあり激しさありで楽しいものでした。そして圧巻は3人の大作曲家の代表曲をそろえた3曲でした。

グラナドスの「アンダルーサ」(スペイン舞曲第5番)。アンダルシア風という意味だそうですが、明るく何か懐かしい感じの曲でした。ビクトル・エリセ監督の映画「El Sur」にも効果的に使われていた曲です。グラナドスは才能あふれるピアニストで作曲家でしたが、アメリカからの帰途、第一次世界大戦の犠牲になり、乗っていた船がドイツのUボートの攻撃で英仏海峡の海底深くに沈んでしまったという悲運の人だそうです。

アルベニスの「アストゥリアス」。アストゥリアスは国土回復戦の発祥の地、歴代の皇太子がアストゥリアス公を継ぐわけをお聞きしてからの演奏でした。柔らかい繰り返しの美しい旋律は聴く人の心を震わせるようでした。面白かったのはアルベニスの生涯。

いままで知られていた冒険談などは作り話や嘘が多かったとか。伝記などでは確認作業が続けられているというお話でした。フランスのサルコジ大統領前夫人セシリアさんはアルベニスのひ孫だそうですから、そのDNAが引き継がれているのでしょうか。

ファジャは近代音楽の父と言われています。「三角帽子」(代官様がかぶる帽子から代官を揶揄するような)から「粉屋の踊り」。魅力的な粉屋のおかみさんからかわれる権力者の滑稽さがそのまま曲想になっているようでした。

アンコールはターレガの「涙」。彼は「アルハンブラの思い出」で有名ですが、その期待通り「涙」は美しい叙情的な曲でした。

音響設備も整っていない小さな会場で、美しく生き生きとした弦の調べを聞かせてくださり、スペインの歴史、音楽史、観光スポットまでお話しくくださった、永島志基さん、本当にありがとうございました。

(松本益代)



▲ギターだけでなく、トークでも十分に楽しませてくださった永島志基氏

## 特別寄稿

# カミーノ・デ・サンティアゴ巡礼の経験談

日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会 代表 森岡 朋子

「歩いていると幸せになるんです」

「なぜ歩くのか」という問いに対して、少し考えてから問屋さんは答えられました。

確かに講演中の問屋さんの口調は生き生きと楽しそうで、カミーノ(「道」という意味ですが、巡礼・巡礼路を指します)から与えられるパワーを幸せに感じながら歩いているのだろう、ということ想像するのはそう難しいことではありませんでした。

5年前からカミーノに行く準備としてスペイン語の勉強をし、体力アップを図り、その日のために努力を重ねていらっしやうと聞き、頭が下がる思いです。そして昨年、念願であった「カミーノ・フランセス（フランスの道）」の徒歩巡礼を完遂した後に、オスピタレロ（巡礼宿の世話役：巡礼証明書を持つ人のみできる仕事）をされたとのこと。多くの巡礼体験者は巡礼後「カミーノに何かお返しをしたい」と思いつつ何ができるのかわからないまま過ごしてしまいますが、問屋さんはその思いをそのまま実行に移されたわけです。そして道中に出会った人たちとの縁を大切にいらっしやうって、次の巡礼に繋げ、縁をさらに広げながら第2回目の巡礼を今度は「北の道」で達成なさいました。



▲スクリーンに自身で撮影した動画を映しながら、巡礼路や巡礼者の様子を生き生きと語る、問屋正勝会員

動画を交えながらカミーノの紹介は本当に臨場感があり、私自身がカミーノで感じた風を懐かしく思い出させてくれ、楽しかった2時間半の講演時間はあっという間に過ぎてしまいました。

私よりずっと年上の問屋さんには失礼な表現かも知れませんが、本当に無邪気に彼はご自身のカミーノを満喫なさっていらっしやうと思います。身に起こる様々なことを興味の対象として、ベクトルを合わせて未知の世界に踏み込んでいくそのパワーと前向きな姿勢は見習いたいものです。

私もご多分にもれず、カミーノに何かお返ししたい、という強い思いがあって友の会を立ち上げました。しかしまだ独り立ちしていない子供たちがおり、実際にカミーノに足を運ぶことはなかなかできません。自然体でカミーノに接し、まるで呼吸をしているように当たり前にカミーノを生きていらっしやう問屋さんが羨ましく、ある日、「いいな、私もそんなカミーノしたいな」と問屋さんに言うと「20年早い。まずは今の自分のやることを全うして」と釘を刺されてしまいました。ハイ、ごもつとも。

まだ十数年は毎年問屋さんのカミーノ話を羨ましい思いで聞き続ける覚悟を固めつつ、私もカミーノの夢を実現させるべく日々努力してまいりたいと思います。

今回のご講演、楽しかったです。ありがとうございました。

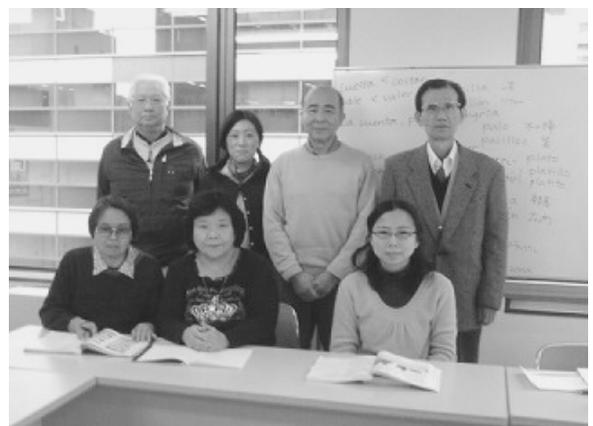
(日本カミーノ・デ・サンティアゴ友の会ホームページ：<http://santiago.junrei.kyokai.googlepages.com/home>)

**\* 協会はスペイン語を楽しく学ぶ場を提供しています。そのクラスを紹介していきます。**

## スペイン語教室紹介 アマポーラ (Amapola)

アマポーラクラスは、2008年4月から新進気鋭の山田り子先生を講師に迎えて、ABCから学ぶことになりました。前年度までのクラスと同じく、月曜日の10時30分から12時までです。テキストは「Nuevo Español 2000 elemental」を使用しています。

プロフェソラ (profesora) ルリコは、まさにアマポーラ (虞美人草) のように、美貌と知性を兼ね備えたセニョリータ (señorita) です。スペインへ語学留学されて実力をつけられ、文法なども分かりやすく、丁寧に教えてくれます。なごやかに楽しく学習でき、受講生からの質問も活発に出て、日本語での確かな答えが返ってきます。現在6名の受講生が、それぞれの目的を持って学んでいます。宿題をやったり、ノート整理をしたり、次の月曜日に来るのを楽しみにしています。(大島セツ子)



▲山田先生とクラスの皆さん

スペイン語を始めたい方、もう一度やり直したい方、どなたでもお気軽に参加してみませんか。一同お待ちしております。(ホームページ<http://www.yokohama-spain.jp>よりお問い合わせください)

# 上原由記音さんアルベニスの ピアノ曲集CDをリリース

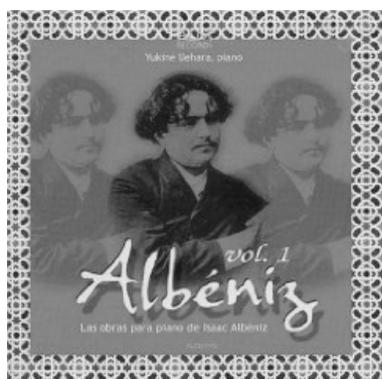
2009年はスペイン近代民族楽派の旗手、イサーク・アルベニスの没後100年にあたります。

これに向けて、会員でピアニストの上原由記音さんはいまスペイン文化省グラシアン基金の助成を得て、アルベニスのピアノ作品集のCD（全4巻）をレコーディングしています。

そしてすでに第1～3巻をリリースしました。これらは全て「レコード芸術」誌で特薦盤を受賞しました。

また上原さんは昨年アルベニスの生家があるピレネーのカンプロドンという村を訪ね、バルセロナのお墓にもお参りしてきたとのことでした。

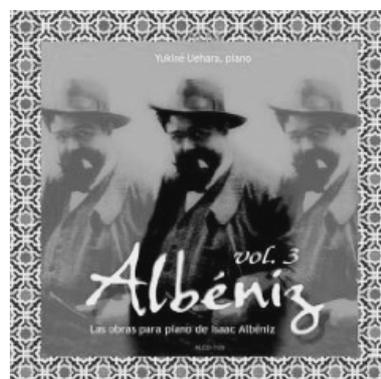
上原さんは「アルベニスの魅力溢れる民族的なリズムとロマンティックで甘美なメロディには、心揺さぶられます。ぜひこの機会に多くの皆様にアルベニスの作品を聴いていただけましたら幸いです」と言っています。



- Alm Records ALCD-7110  
2,940円（レコード芸術誌特選盤）
- ◆スペイン組曲（第1集）  
グラナダ  
カタルーニャ  
セビーリャ  
クーバ
  - ◆2つの性格的小品集  
ホタ・アラゴネーサ  
タンゴ
  - ◆ラ・ベエガ（沃野）
  - ◆組曲「イベリア」（4巻からなる12の新しい印象）第2巻（全3曲）



- Alm Records ALCD-7119  
2,940円（レコード芸術誌特選盤）
- ◆スペインの歌（全5曲）
  - ◆木の下で
  - ◆組曲「イベリア」（4巻からなる12の新しい印象）第1巻（全3曲）
  - ◆雄鶏のメヌエット（ソナタ第5番より）
  - ◆ピアノとオーケストラのためのスペイン狂詩曲
  - ◆パバーナ（「12の性格的小品集」より第8番）



- Alm Records ALCD-7129  
2,940円（レコード芸術誌特選盤）
- ◆組曲「エスパーニャ」（6つのアルバム・リーフ）
  - ◆秋のワルツ
  - ◆サラゴサ（スペイン組曲第2集より）
  - ◆パバーナ（カプリーチョ）
  - ◆組曲「イベリア」（4巻からなる12の新しい印象）第3巻（全3曲）
  - ◆プレリュード（《アスレーホス》より）
  - ◆プレガリア（祈り）（《12の性格的小品集》より）

## — 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオーリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

# ホームページリニューアルのお知らせ

昨年11月28日、横浜スペイン協会のホームページが生まれ変わりました。新しいホームページでは、タイムリーな記事、協会からのお知らせをお伝え出来るようになりました。会員の皆さんのスペイン旅行記や写真の投稿をお待ちしております。

また、各担当のメールアドレスも下記の通り新しくなりましたので、お知らせいたします。(中澤康晃)

- ◇事務局 (一般問い合わせ)      aiyes\_info@yokohama-spain.jp
- ◇スペイン語教室      aiyes\_language@yokohama-spain.jp
- ◇スペイン・サロン      aiyes\_salon@yokohama-spain.jp
- ◇AIYES通信投稿      aiyes\_press@yokohama-spain.jp
- ◇web掲載投稿、リンク申し込み      aiyes\_web@yokohama-spain.jp
- ◇メールアドレス・住所変更、入退会  
aiyes\_info@yokohama-spain.jp
- ◇横浜スペイン協会ホームページ  
http://www.yokohama-spain.jp (新しいURLです)



▲新しいトップページ



携帯電話からもアクセスいただけます

## \*\*\*\*\* 事務局からのお知らせ \*\*\*\*\*

### ◆20周年記念企画案

2010年に創立20周年を迎える横浜スペイン協会の記念行事につき、会員の皆様からいくつかの提案をいただきました。有り難うございました。具体的な内容や、提案された企画が実行可能か否かの検討や、それぞれの企画を担当して下さる会員の申し出の受付や、更なるアイデアの提案など全てこれからの作業になります。ひとまず、現在までに事務局に届きました企画は以下の通りです。

- \* 協会創立20周年記念パーティーと全国スペイン協会会議の併催
- \* 記念音楽会
- \* 記念講演会
- \* 会員作品展覧会 (写真・絵画・工芸品・押し花など)
- \* ロンダ市への親善旅行
- \* 会員のためのスペイン国内ペンション貸借
- \* スペインの学生などへのホームステイ先提供
- \* 関連組織と共催で横浜フラメンコ大会
- \* 20周年記念品の販売

創立記念日の2009年7月7日を中心にして6ヵ月間位を記念行事期間としてその間に様々な催しを計画して行きたいと考えております。皆様からのご意見をお寄せ下さい。

<編集後記> 昨年11月スペイン国王ご夫妻が来日され、晩餐会に協会から下山会長が出席されました。記事にもありますようにこれは協会として大変名誉なこと、まもなく20周年を迎える協会の歴史の上で大きな出来事になりました。これを励みに20周年記念事業を盛り上げていきたいものです。さて世の中は混沌として、行方知らずの感が漂っています。こんなときこそ地道に進んでいくことが必要ではないでしょうか。今更ですが協会もまた然りで、AIYES通信も奇をてらうことなく協会の顔として今年も情報を提供していきたいと思っております。会員皆様のご協力もよろしく願いいたします。(鈴木生雄)

編集委員 山田るり子 石井加奈弘 久保田誠志 佐藤陸雄 澤田真人 鈴木生雄 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 渡邊昭夫 飯塚 劭

- \* 投稿寄稿宛先  
横浜スペイン協会会報係 e-mail : aiyes\_press@yokohama-spain.jp  
横浜スペイン協会URL http://www.yokohama-spain.jp

次号の原稿締切は  
**3月10日(火)です。**  
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。